



栽培技術情報：鉢上げ

シクラメン栽培、成功のための 3 つのカギ： 鉢上げ、鉢 そして用土



1. 鉢上げの手順

- 苗の受け入れ
- 作業場所のプランニング
- 子葉
- 鉢上げ用の穴
- 球根の高さ
- 運搬用トレイ
- 感染リスクの予防

2. 良い鉢選び

- 素焼き鉢
- プラスチック鉢
- かん水システムの相互作用および栽培開始

3. 良い用土選び

- 配合
- 元肥



1. 鉢上げの手順

鉢上げで成功するかどうかは苗の受け入れ前に既に決まってしまう。栽培に最適なコンディションを整えましょう。

苗の受け入れ：

苗を直接地面に置かない、殺菌消毒したベンチ上に置くことを常に心掛けてください。また光度を低め(200W/m²)に保ち、必要に応じ軽くかん水しましょう。このとき肥料も酸も与えないようにします(清浄水で)。



作業場所のプランニング：

苗をプラグトレイに入ったまま保管するのは避けて下さい。苗のしおれの原因になります。プラグトレイの中で徒長してしまったシクラメンは不必要なストレスを受け、ひ弱になってしまい、早生性を欠いてしまいます。



長く保管しすぎて乾燥してしまった苗

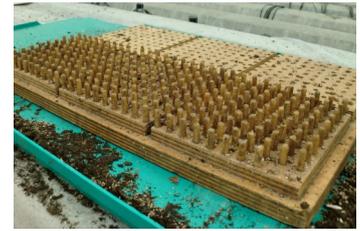
子葉：

この葉は数カ月にわたる栄養分を貯蔵しています。一度苗がポットの中で根付くと、やがて自然に枯れ落ちていきます。手で取り除く必要はありません。むしろ苗を傷めるリスクもあるのでお勧めできません。



鉢上げ用の穴：

苗の根はもろいので、鉢上げの際に簡単に傷ついてしまいます。これを避ける為に、プラグ穴からやさしく苗を押し上げるトレーを使用されることを強くお勧めします。このトレーはプラグ穴の大きさに合っていることが大切です。また栽培用土に穴を開ける道具にもなります。



球根の位置：

不必要なダメージを避けるために球根の位置を確認してください：深く植えずぎない(腐敗、開花が遅れる原因になります)、浅すぎない(乾燥の原因、不安定になります)。一般的には球根の1/3 上部が地面から出る程度に植えるのが良い深さとされています。なお、深さを決定する際はかん水による用土の圧縮も考慮に入れておかなければなりません。



鉢を持ち運ぶためのトレー：

鉢上げ時に持ち運び用トレーや栽培トレーを使用することが段々一般的になってきました。トレーのタイプによってはスペーシング前のかん水の影響を強く受けることがあります。

正しい水はけを妨げてしまう、水が溜まるタイプのトレーは選ばないように注意してください。換気もできるような底に穴が開いているトレーが望ましいです。しかしこのタイプのトレーを使用する場合、保水力の違いによりかん水の量および頻度の調整が必要になります。



感染リスクの予防：

手作業、機械による鉢上げに関わらず、鉢上げ作業をする場所には最大限の注意を払わなければなりません。栽培に使用する道具や機械、設備などの消毒は大変重要です。

消毒やフザリウム予防に関する詳しい情報は、弊社ウェブサイト www.cyclamen.com をご覧ください。



2. 良い鉢選び

非常に多くのタイプの鉢が販売されています。どの鉢を選ぶかはどのかん水システムであるかにも大きく作用されます。

素焼き鉢

南ヨーロッパでは素焼きの鉢でシクラメン栽培をしている農家が大部分を占めています。素焼き鉢のメリットとしては：

- 根に必要な保冷性
- 株の安定性が高い
- 店頭での見た目が良い

逆にデメリットもあることを考慮しておかなければなりません：

- 用土に必要な水分や栄養分を鉢自体が吸収してしまう
- 時として底面かん水システムに十分適応しない水はけ構造になっている鉢もあります。水の注入、排水にかかる時間が非常に長くなり、株に過剰な水分を与えてしまうことになりかん水調節を制限してしまいます。生産者にとっても株の生育調整を制限してしまいます。
- 点滴かん水システムでは、鉢自体の吸収のせいで栄養供給が過剰(より多い、より頻繁)になってしまう





プラスチック鉢 :

非常に多く使われています。メリットもたくさんあります :

- 軽い
- 経済的
- 機械化できる
- パーソナル化できる

デメリットとしては :

- 不透過度にかける : シクラメンの根は鉢を通過して入ってくる光に敏感であることを忘れてはいけません。暗黒状態を保つために内面が黒いプラスチック鉢が良いとされています。
- 温暖地域では外面が黒いプラスチック鉢の使用を避けてください。根部分により熱を与え、被害の原因になります。

光の反射効果を活かすためにはプラスチック鉢の外面の色は白色をお勧めします : よりコンパクトなシクラメン栽培に向いています。カラフルな鉢の選択は販売促進や差別化させるためのパーソナル化(コマーシャルデザインやマークなど)を可能にします。

かん水システムと栽培開始の相互作用 :

点滴かん水 :

点滴かん水システムでは、鉢を直接地面に置くことが多いようです。

しかし地面は病因の宝庫なので注意してください。きちんと水平になっていないことが多く、かん水時の排水が十分でないことがしばしばあります。この地面に溜まった水が株に吸水され、不均一な栽培の原因になることが良くあります。

対策としては、弊社では下記をお勧めしています :

- 均一に水はけし、鉢の下に水が溜まるのを防ぐためかん水の量を調節する
- 底面が直接地面に付かないよう鉢底に足が付いている鉢を選ぶ

栽培に関して、かん水精度の重要性およびシクラメンは根呼吸に非常に敏感であることを忘れないでください。



底面かん水 :

毛管現象を利用した底面かん水システムでは、かん水精度と量の調節はコントロールしにくくより難しくなります。可能な限り最大限に排水させ水はけを向上させるために、この毛管現象を制限することが必要となります。かん水頻度を高めに保ち、一回あたりのかん水量を少なめにするのが望ましいです(特に暑い時期)。

最近では、水はけを促進するために鉢の奥に数段の層や 12 ~ 16 個の穴が開いているものが見られるようになりました。

このタイプの鉢を使うことで 2 つのメリット(水はけと通気の改良)を同時に享受できます。

これらは根による肥料の吸収を高めます。

マットかん水の場合も、鉢の構造に関し同様の技術的基準で鉢を選択します。

(更に詳しい情報は、弊社ウェブサイト www.cyclamen.com をご覧ください。)





3. 良い用土選び

今日では様々な配合、様々なブランドの用土から選択できるようになりました。しかしシクラメン栽培に関しては必要不可欠な条件があるため詳しく見てみましょう。

生産者の皆様および利用する栽培システムにとって、**最良の根系システムを作るための水分、空気**の量およびそれら2者が交換する長さの**最高バランス**を見つけることが必要です。シクラメン栽培に関しては用土は新しいものでなければなりません。病虫害の因子が混入しているリスクが高いため、一度栽培に用いた用土の再使用は厳禁です。

配合：

弊社の経験から、最もパフォーマンスの高い用土の配合は：

- 大部分はホワイトピート
- 水はけを強化するためのパーライト
- 様々な団粒のホワイトピート



流量の高い(> 2 l/h)点滴チューブを使ってのかん水に限っては、より水はけを高くしなければなりません。目の粗いピートを使用し、クレイまたは凍らせたブラックピートを5～10%混ぜます。

そして、栽培ベンチへの株の配置が空気の流れによりかん水バランスと頻度に作用します。例えば、網目の栽培ベンチ上で素焼きの鉢と通気の良い用土を用いた栽培と、直接地面でプラスチックの鉢および水はけに欠ける用土を用いた栽培とでは全く反対の結果をもたらします。

底面かん水では順応性が弱くなり、この場合、毛管現象を制限することが必要になります。つまり、より粗い部位を用い、10～15%程度パーライトの様な添加物を加え、より水はけの良い配合にしなければなりません。この空気に関して一番大切なのは、鉢の上から入ってくる空気、**重力の影響**で下へ届きます。水は鉢から排出され、空気にとって代わられます。そして根を通るときに酸素へと移ります。



元肥：

化学肥料の添加量に関しては、どの品種かにより違ってきます。いずれの場合も最初のスペーシング(鉢上げ後4～5週)までの間に十分足りる量でなければなりません。メティス®、ティアニス® およびプレミアムの栽培には $0,5 \text{ kg/m}^3$ の元肥を用土に混ぜます。鉢サイズが大きくなるハリオス® および ラティニア® の栽培では元肥を 1 Kg/m^3 まで加えてください。なおスペーシングまでの株の上面からのかん水時には肥料を加えません。

